

こうとう民報

2011年11月号 No.85

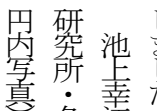
江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

「子ども・子育て新システム」 「原発」 ……

「子どもの未来を語るつどい」

10月30日第四大島小学校で開かれた「第23回子どもの未来を語るつどい」。主催は、区内で働く保育園、学童保育、父母の会、労働組合などで構成する同実行委員会。このつどいには230人が参加しました。



保育関係者や子どもを抱いた若いお母さんなど多数の参加者が講壇いっぱい。3・11原発事故が人間社会に及ぼした影響を「原発やめよ」の歌とダンスのパフォーマンスも交えて子どもを守る決意にあふれました。

「今後の課題と活動」など豊富な資料で詳しく報告。放射能から子どもを守るため、放射能汚染の基準と実態をわかりやすく説明しました。放射能汚染から身を守る」

脱構造改革！新福祉国家への道

二宮教授迎え江東社会保障学校開催

11月9日、江東社会保障学校が産業会館で、会場を埋め尽くす90名の参加者で開催されました。

開演にあたり、青柳副会長は「民主党政権後、障害者自立支援法の改正素案をつくったが、厚労省は金がかかり過ぎると難色を示し、後戻りをしようとする。社会保障の後退を許さず、充実に向けみなさん頑張りましょう」と挨拶しました。

一宮厚美神戸大学教授は「脱構造改革！新福祉国家へではなく、『経済から考えた』保育制度で、保育の質の低下、保育環境の不安定化を生み出す制度として、9つの問題点をあげ、これでは公的保育がなくなる」と強調しました。

集会後、「保育園の民営化」と感想をききました。

反対の運動に参加した経験から「新システム」の話がされたのでとてもよかったです。

「野田政権は貧富の差の拡大をもたらした小泉構造改革へ回帰しようとしている。TPPの加入、消費税引き上げ、地域主権の導入、とりわけ、社会保障をオトリに使って消費税を増税する作戦で国民の善意の声を巧みに利用し、消費税を社会保障目的税化しようとしている。しかし、それはみんなのために、みんなですく、みんなを支えるという共助・連帯としての社会保障へ変質させ、憲法25条の国による生存権保障という基本理念を捨て、社会保障の保険主義化の進行と自治体における『共助・協働の福祉化』『自治体福祉の市場化』をもたらしつつある。江東区の行政計画案も財政が豊かにもかかわらず職員削減、業務の民間委託の推進、保育園の民営化の手法など自治体の経営化を図るものである。

大震災から8カ月の11日、野田首相がAPECに出発する前に国会ではTPPをめぐって集中議論が行われていました▼「アジア・太平洋地域での成長力をとりこむ」と首相が具体的にあげたのは「10年間で2・7兆円のGDPの伸び」。これは「農林水産物の生産額4兆5000億円、関連産業を含めてGDP8兆4000億円と雇用340万人の減少」というTPP参加を推定した農水省の試算の前にまったく説得力を失っていました▼福島原発事故は日本のルールなき資本主義の原発版といわれていますが、貿易でも、米の関税は778%、小麦250%にしておき、毎年関税なしの77万トンの外米を輸入し、小麦も86%を輸入にたよって、日本の農業の衰退を招いています▼その要因は、大企業の自動車や電気製品の輸出の代償に、余剰農産物輸入を促進してきた政策です。今や世界人口が70億人となり食糧需要が増え続けていくなかで、豊凶に左右される食糧を安上がりだからといって外国に依存してはなりません▼国民の目の届かないところで、原発輸出交渉やG20での消費税増税表明、そしてTPP参加をオバマ大統領への手土産にするなど、圧倒的な世論に背を向ける野田政権が亡国への道に踏み出すことを許してはなりません。

ためこみよりも 区民福祉増進を！

区議会第4回定例会は11月24日(12月14日まで会期)で開催されています。

24日の代表質問ですがや俊一区議は、①周囲を川と海に囲まれるなど災害に弱い区の特徴を踏まえ、た防災対策の強化 ②放射線量のより詳細な調査と除染、食品の規制値の見直しと調査体制の強化など放射能汚染対策の強化 ③TPP

きくち幸江区議は25日の本会議で、①がん検診の有料化や民間委託拡大、職員削減による区民サービスの低下など行革問題 ②介護保険制度の改正問題や特養ホームの増設要求、高齢者の住宅問題 ③歴史認識と教科書問題、35人級学級の着実な実施、教育費負担の軽減について区の姿勢をたずねました。

共産党が国保負担軽減の条例提案

今議会では、共産党区議団が提

減の条例提案

今議会では、区文化・スポーツ施設や区民館などの使用料の見

行革をすすめる 根柢なし！

直し(値上げ)など「行革」の具

「行革」に対する各党の態度が

野田政権は貧富の差の拡大をもたらした小泉構造改革へ回帰しようとしている。

「深川氏による新田開発」



深川神明宮

概説

江東の歴史 (4)

深川の地名は深川八郎右衛門の名からきています。徳川家康が狩猟にきて八郎右衛門にこの地名を聞いたので、一円の茅野で定まった地名はないと答えたところ「それなら汝の苗字を村名に」と言われました。

1596年、彼は小名木川北岸で、今の深大橋・常盤・高橋・森下・猿江・住吉と墨田区立川・菊川など27か村を開拓、深川村を唱えてその名主となり、子孫が相続しました。

同じ頃、野口次郎左衛門がその南岸で、白河・三好・高橋・海辺・石島などで海辺新田をひらきました。

この時期に江東区で開発されていたのは深川村・海辺新田・亀戸村だけで、河川を開削するときに浚った揚げ土と江戸府内の塵芥による埋め立てで、葛飾郡西葛西領に属していました。

深川八郎右衛門は住んでいた深川元町（森下1丁目）に神明宮を造り、菩提寺として泉養寺をたてました。彼は1660年10月27日に死去。その子孫の八郎右衛門は1658年頃にも砂村方面（東砂6丁目）に八郎右衛門新田を開拓し、住居を深川本村（猿江あたり、横十間川に本村橋がある）に移しました。先祖が葬られた泉養寺もともに猿江に移ったようですが、その後、昭和の初めに千葉・市川市国府台に移転しました。

深川家は七代目八郎右衛門のとき、深川在方組合の跡式（遺産・不動産、またはその相続）の引継ぎのさいの不正で、彼が一同の罪を引き受けて一か月余入牢。出牢しては断絶しました。（その後、138年余も名主を務めた旧家が無縁になっていることを歎いた深川26町の惣代が、毎年3貫文を泉養寺に寄付して供物香花で供養したという記録が残っています。）

増税NO!



消費税増税ノー！暮らしを守る公平な税制を！

消費税増税反対大学学習会

講師の松田周平さん（税理士）は「消費税が導入されて23年、なかみは大企業、高所得者の減税だった」と述べ、法人税減税の財源に消費税が使われてきたこと、証券優遇税制などにより所得が1億円以上の高額所得者の税率は、所得が高くなるほど低くなっ

11月4日、江東各界連は「消費税増税反対大学学習会」を江東区産業会館で開催しました。



ている事実を指摘しました。また「消費税は事業者にかかる税金。消費税をお客さんから、取っても取らなくても納めなくてはいけない。大企業は価格に転嫁できるが、町の中小企業はそれができない」と話し、中小業者にとつてはまさに営業破壊税になると語りました。また意外に知られていないこととして「輸出戻し税」の存在を指摘。「トヨタ、ソニー、キヤノンなど輸出企業には年間2兆円が輸出戻し税として還付されている」と話しました。

集会では、森外米蔵代表から、来年4月1日までに、新たな500万署名を集める全国運動に呼びかけ、署名・宣伝行動が提起されました。

参加者からは「G20で、野田首相が消費税を上げると勝手に公約した。こんな国民を馬鹿にした話はない」と怒りの声があがりました。

江東区医師会からは、会長、副会長、総務部長が懇談に出席しました。



懇談の中で医師会側から「民主党政権が検討している受診時定額負担制度や混合診療問題は、低所得者の受診抑制につながるので反対」「消費税は医療機関にとって大きな負担、増税は受け入れられない」との発言がありました。

また「子どもの予防接種は費用負担が重いので、助成金の増額を」「江東区の前立腺がん健診の対象年齢拡大」「介護予防の強化」災害対策では「水の貯蓄ではなく浄水器を設置してほしい」など区政に対する要望が語られました。

共産党区議団からは、きくち幸江幹事長が代表してあいさつに立ち、区政の状況を報告し、いただいた要望は区政に反映していくと述べました。

なお江東区医師会では「受診時定額負担反対署名」をおこなっています。

日本共産党江東区議団・あぜ上三和子事務所 医療問題等で 江東区医師会と懇談

11月11日、日本共産党江東区議団とあぜ上三和子事務所は、国政で大きな問題になっているTPPや医療問題等で意見交換を行いました。

- 〜お知らせ〜
- 日本共産党江東区政策委員会は、政策討議資料を作成しました。各団体での学習会などでぜひ活用ください。
 - 原発災害を考える
 - 原発災害対策の財源問題について
 - 江東区議団「放射能の危険から子どもたちを守る」
 - 国民健康保険料値上げ問題
 - TPP問題（環太平洋経済連携協定）

- 〜行事日程〜
- 12月11日(日) 「世直し・電入行進」 10時 浅草花川戸公園 東部総行動
 - 12月15日(木) 「江東区行財政改革計画ミニ学習会」 18時30分 江東大運動実行委員会
 - 12月16日(金) 「消費税 廃止宣伝・署名行動」 17時30分 東陽町西口 江東各界連

11月13日、江東革新懇・江東区労連女性部は「東京大空襲爆心地・深川地域を歩く」を行い、30名が参加しました。

1945年3月10日0時8分、木場2丁目、白河2丁目、その後、三好1・2丁目付近にも焼夷弾が落とされ、深川地域は火の海に包まれました。空襲警報が鳴ったのは0時15分でした。多くの人は火の手から逃れるために川に飛び込みましたが、辺り一面は煙に包まれ二酸化炭素中毒で亡くなる方もいました。

当時の惨状を物語る石碑は、普段何気なく

東京大空襲爆心地・深川を歩く

江東革新懇・江東区労連女性部



通り過ぎてしまう場所に多くあり、ゆつくりと平和を噛みしめながら歩きました。

その後行った交流会には10名が参加。参加者からは「訪れた慰霊碑には香華が供えられていて、犠牲者を思う気持ちで60年以上たつた今でも残っていることを感じた」と感想が寄せられました。